

「イエスが愛したベタニヤ」

ルカ 24:44 ~ 53

神さまは、人々が墮落して罪に陥った時どう回復させるかを計画されています。そこでイエスさまは、処女マリアから家畜小屋…人の心の一番汚いところに誕生し、多くの人々に愛を表し、今までのルールとは全く違う真理を伝え、33年間の人生の中で大工の息子、大工として30年を過ごし3年の公生涯を全うされました。この3年間で弟子を12人養い、裏切り・嫉妬・妬みによって十字架に架かれ、3日目に蘇られたのです。そして再び弟子たちに現れ共に過ごし、天に上げられる前の記事が今日の箇所です。

ベタニヤは、イエスさまが十字架にかかれたエルサレムから約20kmほど離れた場所ではないかと言われています。ガリラヤ湖に行く途中、わざわざ死海に向かうようにベタニヤへなぜ行かれたのでしょうか。

■ ベタニヤとは…

ベタニヤとは「貧困」「問題の町」という意味を持っています。貧しさと問題だらけの町だったのです。イエスさまはこのような差別された地へ行き何度も働きを成されました。その出来事とは、マリアとマルタにも会いました。ラザロの復活やイエスさまの昇天の出来事もこのベタニヤでした。

貧しく人々から見放された町…そんな問題だらけの町で、本来の人々の生き様が描かれています。問題があるからイエスさまを探し求めました。罪があるから悔い改めました。信じる信仰によって4日経った死人がよみがえりました。「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言ったではありませんか（ヨハネ 11:40）」とイエスさまはマリアたちに語られ、その次に、イエスさまが数少ない父なる神さまを呼ぶ箇所へ続きます。「父よ。わたしの願いを聞いてくださったことを感謝いたします（ヨハネ 11:41）」と、周りにいる群衆が、父なる神さまがわたしをお遣わしになったことを信じるようになるために語られました。イエスさまがお生まれになったガリラヤでは起こらなかった奇跡が、ここではこのように何度も起きます。神を信じるか信じないかは、この町によるものではありません。問題のさなかにあっても神さまを見出そうとする人々の心によるものと分かります。

また、興味深いのは、ルカ 10:38 には、ベタニヤのマルタという女性がイエスを「喜んで家にお迎えした」とあります。イエスはマルタによって喜んで迎えられます。この「歓迎」とザアカイがイエスを迎えた（ルカ 19:5～6）。「歓迎」は同じ言葉が使われています。私たちがどのようにその物事と向き合うか、向き合う姿勢が問われています。

■ いちじくのたとえ（マルコ 11:12-14,19-25）

ベタニヤではありませんが、その近くの場所で「いちじくのたとえ」が語られています。実のならない時期に実を生らす備えの実のたとえです。

いちじくには2つの実があります。「パゲと呼ばれる初なるいちじく」と「テヘナと呼ばれるパゲの後にできる本なるいちじく」です。パゲは、小さな実で甘みもほとんど無い実ですが、雨期の食べるものがない時期に食べられる民が喜ぶ実でした。そして、この初なるの実がならないいちじくの本は本なるいちじくを実らせることはできません。これは私たちの人生に置き換えることができます。本なるいちじくを実らせようと思ったら初なるいちじくを実らせて備えておかななくてはならないのです。イエスさまがこの木の前を通られた時はパゲのなる時期でした。それなのにこの木はパゲを実らせ

ていなかったのです。パゲ（初なり）とは喜びの備えといえます。このたとえから、私たちが受け取るべきことは、実がならない時期に初なるの実を実らせることが大切であるということです。それはつまり、信じられないことを信じ、祈ったことが必ず叶えられると信じ、赦せない人や事柄を赦すということです。

■ ベタニヤ

ベタニヤは、その象徴でした。ベタニヤの中では罪を犯した人が悔い改め、赦せないと思っていた人が相手を赦し、人々が受け入れなかったイエスさまを心から愛して受け入れ、信じて願って生きようとしていました。自分はどうでしょう。赦せない人がいるなら赦さなければなりません。人間の感情ではできないので、実のならない時だからこそ、イエスキリストの御名によって私たちは「赦す」と宣言するのです。そうすると、時が来ると本なるの実がなり、その実は赦しという答えとなって自身に奇跡を起こします。

ベタニヤ…そこは、イエスを心から歓迎し、イエスのみことばに聞き入り、神の本意、すなわち神のご計画と心を悟り、神に対する悔い改めをもたらす象徴的な場所です。そして、主は再びそこに戻って来られるのです。

イエスさまが、エルサレムやほかの地域ではなく、わざわざ問題の多いベタニヤに行かれた理由がこれを示すためでした。だから今日私たちは、自分が置かれたベタニヤ（問題の多い地）に対して向き合い正しい決断をしようとするものになりたいのです。あなたは、どうなりますか。ベタニヤ（問題の中にあっても正しい人生を決断する）ですか？ローマ（今持っている力に対する依存）ですか？エルサレム（嫉妬と人の怒り）ですか？

まとめ

今は実のならない時期です。ですが、この時期に初なるの実を実らせないと本なるの実を実らせることはできません。だから私たちは初なるの実を実らせなければならないのです。問題の中にある人たちのために、彼らの助けとなる実を私たちが実らせるのです。イスラエルの人々の中で、何も食べるものがない時期になる初なるのいちじくは、貧しい人々は取って食べて良い、というものがあつたそうです。「受けるよりも与えるほうが幸いである。」今の自分を思いおこしてください。すべては主から受けたにすぎません。「私は裸で母の胎から出て来た。また、裸で私はかきこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな（ヨブ 1:21）」裸で生まれ、死ぬ時にも何も持っていません。今、自分に任されたものをどう使うか試されています。

最善を尽くさなくてはなりません。そのために
①「やってはならない」と言われていることをしない。
②自分の持てるものを自分のものだと思わない。
③信じる。

を、実行してください。あなたが信じたとおりにあります。人生は、諦めた人と諦めなかった人の2パターンです。「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言ったではありませんか（ヨハネ 11:40）」とイエスさまが言っているのです。私たちが信じるものとなれば神の栄光を見るのです。だから信じて自分の持てるものを用いて生きましょう。

（要約者：行司佳世伝道師）

（2020年4月19日）